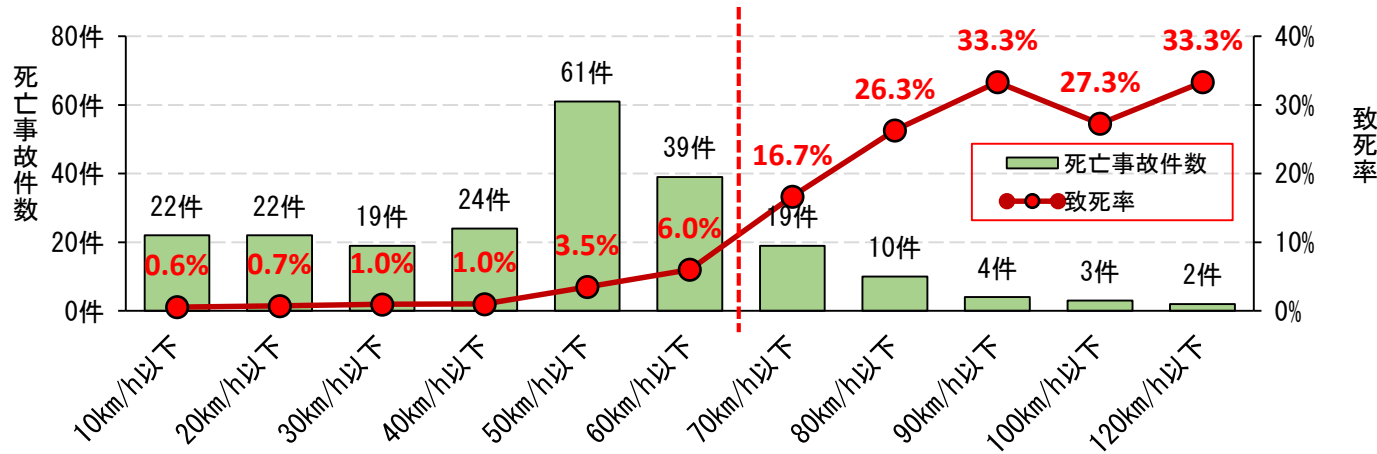


危険認知速度分析 ～ スピードの出し過ぎは重大事故に！ ～

5年間（令和2年～令和6年）

【危険認知速度別死亡事故件数・致死率】

計 225件 ※ 高速道路等を除く事故



スピードを出すとどのくらい危険で重大事故につながるのか、過去5年間の死亡事故（高速道路等での事故を除く）で「危険認知速度」から、速度別の致死率をみると、40km/h以下までの致死率は1%以下であるが、60km/hを超えてから高くなり、速度が高ければ高いほど、重大事故発生の確率も高くなる。

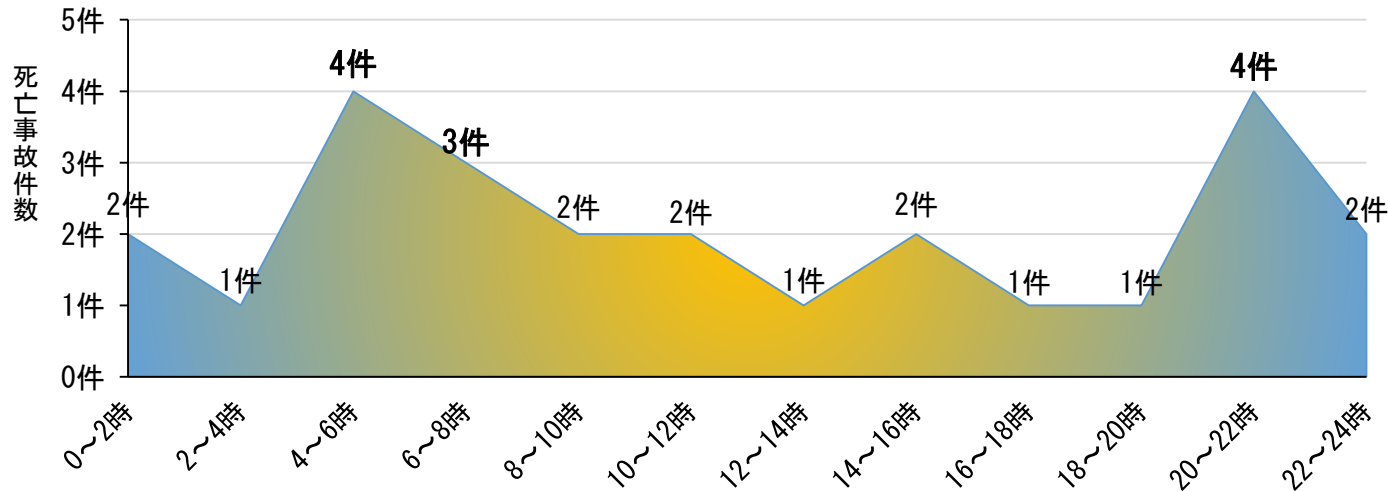
注1：「危険認知速度」とは、事故当事者が相手方車両・人等を認め、危険を認知した時点の速度、例えるとブレーキ・ハンドル操作等の事故回避行動をとる直前の速度をいう。

注2：「致死率」とは、人身交通事故100件当たり、どの位の割合で死亡事故になるのかを示したものをいう。

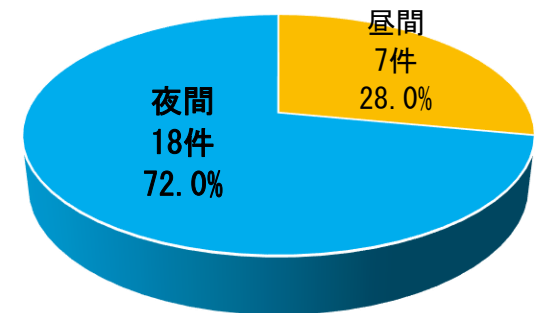
《最高速度違反による死亡事故発生状況》

【時間帯及び昼夜別】

計 25件

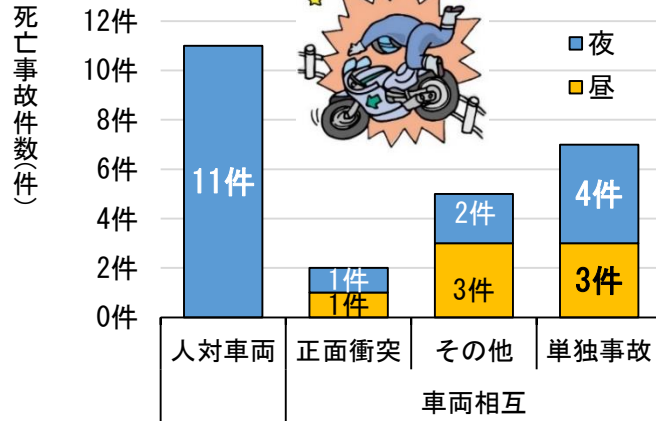


速度違反による死亡事故の発生時間帯をみると、夜間の発生が昼間より多く、特に深夜から未明の事故が多い。

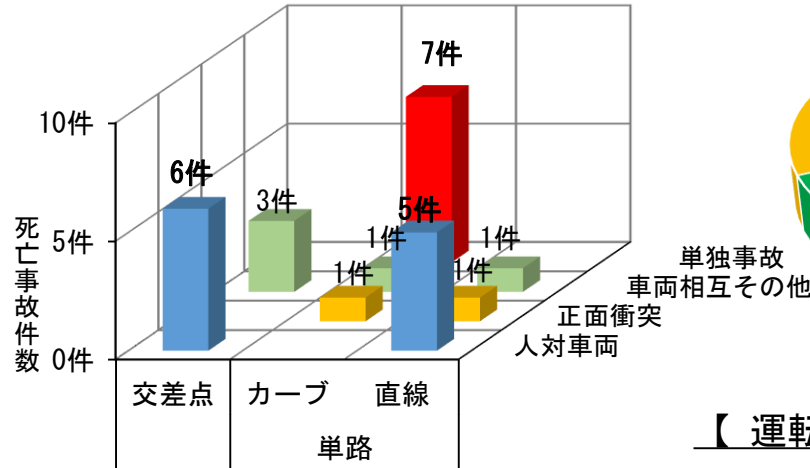


《最高速度違反による死亡事故発生状況》

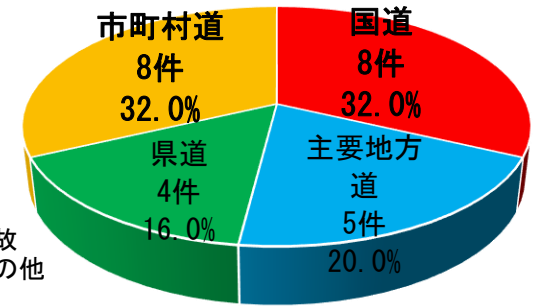
【 事故類型と昼夜別 】 計 25件



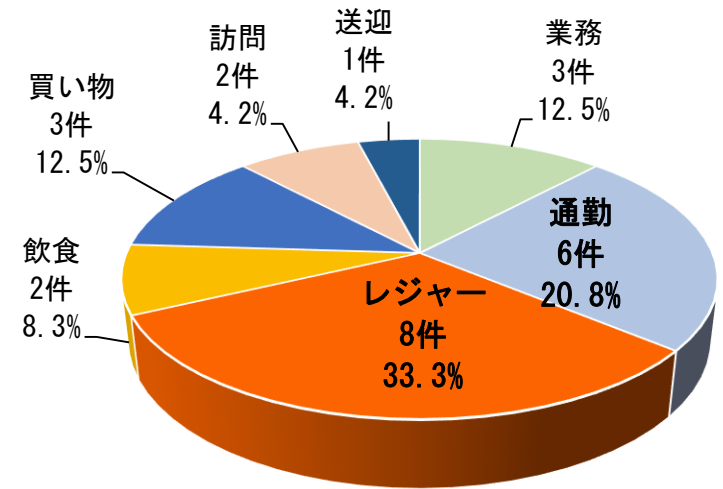
【 道路線形と事故類型別 】 計 25件



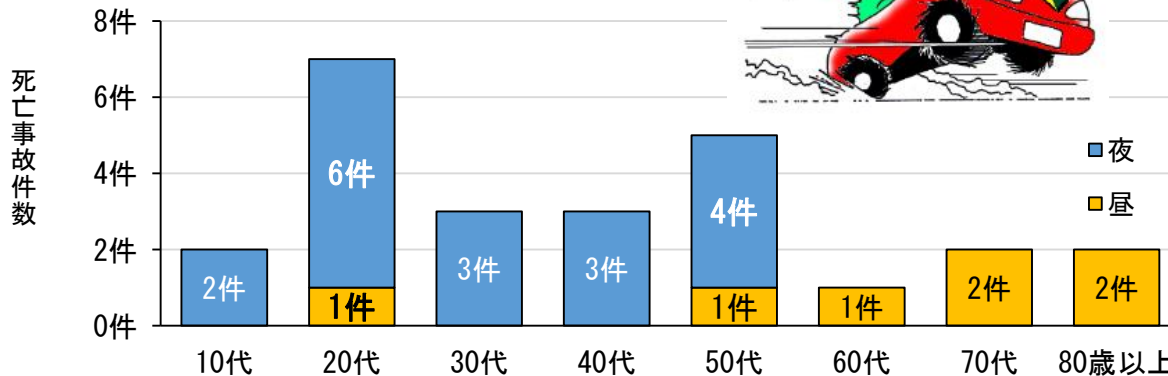
【 路線別 】 計 25件



【 運転者の通行目的 】 計 25件



【 運転者の年齢層と昼夜別 】 計 25件



- ・ 単独事故が半数以上を占め、カーブでの事故が多い。また、対歩行者事故はいずれも夜間の事故である。
- ・ レジャーでの事故が3割強を占めるほか、通勤中の事故も多い。
- ・ 運転者の年齢層が若いほど夜間の事故が多く、60代以上は昼間の事故である。
- ・ 国道や主要地方道といった幹線道路での事故が半数以上と多い。また、生活道路である市町村道での事故も多い。

